

会報

1974

5月

(第8号)

財団法人 京都市文化観光資源保護財団

〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町

京都都会館内

(電) 京都 (075) 761-0020



竹伐り会

鞍馬山の竹伐り会式

平安時代、峯延上人が鞍馬山で修行中あらわれた大蛇を法力で退治したという故事にちなんで、大蛇を青竹になぞらえて行なわれる行事である。

その主な内容は、鞍馬寺本殿正面に待機する鞍馬法師が、四人づつ丹波座、近江座の二手に分かれ、山刀で青竹を伐って、その早さを競いあうものである。

この行事のクライマックスは、管長が上下する桧扇の合図によって、各座二人づつが一組となって長さ約四メートル、太さ約十センチの四本の青竹をすばやく伐り落し、早く伐った方が本坊にかけこむ一瞬である。

なお、丹波座、近江座の名称は、本殿に向って左が丹波座、右が近江座となっているが、その由来は諸説あって、はっきりしない。

この行事は、毎年、六月二十日午後二時から鞍馬寺本堂前で行なわれる。

〈京の年中行事〉

六月1～2 薪能(午後五時) 平安神宮

20 竹伐り会(午後二時) 鞍馬寺

七月1～29 祇園祭

八坂神社・各山鉦町

17 山鉦巡行

9時 四条烏丸出発

20 御手洗祭(終日)

下鴨神社

八月15 花背松上げ(午後九時)

花背原地町

16 大文字五山送り火

(午後八時) 大文字五山

23 広河原松上げ(午後九時)

広河原

24 雲ヶ畑松上げ(午後八時)

雲ヶ畑

24 久多花笠踊(午後九時)

久多

ご協力ありがとうございました

寄附者芳名録（敬称略）

（自昭和四十九・一
至昭和四十九・四）

※印は追加寄附をいただいて
累計額が増加した芳名

会社法人及び団体の部

- 〔特別会員〕
△五百万円△
日商岩井（株）・川崎重工業（株）
△四百万円△
生命保険協会
△三百万円△
※佛日本不動産銀行
△百万円△
※賀茂別雷神社

〔賛助員〕

※神奈川県厚木市立厚木中学校生徒
会一同

個人の部

- 〔特別会員〕
△百五万円△
※笹岡勲甫（未生流・笹岡家二）
〔普通会員〕
△八万五千元△
※竹村實
△四万一千円△
※別所閑山

〔賛助員〕

※田村彰敏・※上田真一・※安井和
久・※安井たつ・※田中正男・※長
島利雄・※伊藤ナツエ・※島田子
・※左近真二・※左近智恵子

第8回特別参観ご案内

林丘寺・赤山禅院
新緑の美しい頃、修学院離宮近
くの林丘寺・赤山禅院の特別参観
を行います。

今回は林丘寺の庭園（江戸）を
はじめ、赤山禅院の日頃公開され
ていない文化財を特別に拝観しま
すので是非ご参加下さい。

◇参観日時
昭和四十九年六月二十九日
（土）午後二時（参
観時間約二時間）

◇対象者
財団法人協力者（会
員）とその家族（定
員30名）

◇申込方法
往復ハガキ一人一枚
を記入（氏名・年令
を記入）（〆切日6月
20日）

◇申込先
〒106 東京都左京区岡
崎最勝寺町三丁目一
番六 光資源保護財団
（電話七六一〇〇二〇
で徴収）

◇会費
二〇〇円（当日受付
で徴収）

《朱雀大路》

◎中臣遺跡で大集落跡発見

京都市では、昭和四十八年十二月から四十九年二月まで、中臣遺跡（市内東山区西野山中臣町など）の発掘調査を行なったところ、弥生時代中期から古墳時代後期の住居跡、みぞ跡など多数の遺構・遺物が発見され、歴史上極めて価値の高い大集落跡であることが確認された。

また、この発掘調査は、一般市民の参加と協力のもとで行なわれたことでも注目を集めた。

◎鳥羽離宮跡で庭園遺構発見

京都市では、昭和四十八年十二月から四十九年三月まで、日本の古代庭園跡では、最大の鳥羽離宮跡（市内伏見区竹田浄菩提院町など）の発掘調査を行なったところ、東殿に附属する庭園の一部が発見された。

この庭園跡は、池の形などが古文献や絵巻物とそっくりな平安末期の貴重な遺構であることが実地に確認されるなど注目を集めた。

◎京都市の昭和四十八年度文化財保護の補助金交付

さる三月二十八日、京都市では、昭和四十八年度文化観光財保護事業

に対し、四十一件総額二千二百五十万円の補助金交付を決定した。

補助の内容は、東福寺三門修理をはじめ、清水寺釈迦堂復旧、大將軍八神社宝物収蔵庫建設など国庫補助を伴う文化財修理三十件一千万円、四五行事の保存執行十件に一千百万円、松毛虫駆除五十万円となっている。

◎京都市遺跡地図の発行予定

当財団では、京都市と共同で、京都市域における史跡・名勝・天然記念物ならびに埋蔵文化財包蔵地の分布所在を示す地図（3万分の1）図と台帖を8月末に刊行し、希望者に実費頒布する。

編集後記

新緑の京都市は、一年中で最も美しく、かつ、入浴客も多いときである。

京都の魅力は、何といても有形・無形のすぐれた文化遺産が周囲の美しい自然とけあつてくらしの中に生かされているところにある。

このような京都を守るため設立された当財団も、みなさまがたのご協力により、すでに当初の募金目標額十億円を達成するとともに、助成面においても、四十八年度は文化観光資源保護事業百八件に対し、総額五千五百万円の補助金を交付するなど年々助成の強化をはかっている。

しかしながら、最近の物価・人件費の異常な上昇を考えると、現在の財団の基金では、京都の文化遺産を守っていくにはまだ十分とはいえず、基金充実のため、今後さらに多くのかたがたのご支援をお願いしたいところである。

当会報も本号で第八号になります。が、会報に対するご意見や住所変更等がございましたらご一報下さるようお願いいたします。